

NEWS RELEASE

令和7年7月

令和7年度『第45回伝統文化ポーラ賞』が決定

～無形の伝統文化の発展に貢献された工芸・芸能分野の8件が受賞～

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団(理事長 小西尚子)は、顕彰事業の一環である『伝統文化ポーラ賞』の令和7年度各受賞者を決定しました。今年は優秀賞2件、奨励賞2件、地域賞4件の合計8件を表彰します。伝統文化ポーラ賞は、伝統工芸技術、伝統芸能、民俗芸能・行事など、無形の伝統文化の分野で貢献され、今後も活躍が期待される個人・団体に対し、更なる活躍と業績の向上を奨励することを目的としており、今年度で45回目を迎えます。昭和56年の第1回目から今年で延べ368名の方が受賞されることになります。なお、贈呈式は12月9日(火)に「ザ・ペニンシュラ東京」にて執り行う予定です。

優秀賞 松本 達弥



優秀賞 伶楽舎



	分野	受賞者		受賞内容
1. 優秀賞	工芸	まつもと 達弥	千葉	彫漆の制作・伝承
	芸能	わいがくしゃ 伶楽舎	東京	雅楽の演奏と振興
2. 奨励賞	工芸	なかむら せいご 中村 清吾	佐賀	白磁の制作
	芸能	おくやま みつせ 奥山 益勢	東京	山田流箏曲の演奏・伝承
3. 地域賞	芸能	きたかみしみんぞくげいのうきょうかい 北上市民俗芸能協会	岩手	地域民俗芸能の伝承・振興
	工芸	あきた みのる 秋田 稔	栃木	漆掻き技術の保存・伝承
	芸能	わごうねんぶつおどりほぞんかい 和合念仏踊り保存会	長野	念仏踊りの保存・伝承
	工芸	すぎはらがみほぞんかい 杉原紙保存会	兵庫	杉原紙の保存・伝承

■表彰内容

1) 優秀賞 賞牌・賞状・副賞（100万円）

永年努力精進され、優れた業績を残して今後とも一層の業績を上げることが期待でき、後進の指導・育成においても継続的に努力し実績を上げている個人または団体。

2) 奨励賞 賞状・副賞（50万円）

将来に向けて、大きな業績を挙げ、成長の可能性が期待できる比較的若い個人または団体。

3) 地域賞 賞状・副賞（50万円）

地域において永年地道に努力され、優れた業績を残して今後も継続・発展が期待でき、後進の指導・育成にも努めている個人または団体。

■ポーラ伝統文化振興財団について

「本当の美しさは、内面の美や心の豊かさを伴ってこそ初めて実現する」という想いの下、豊かな社会と文化の向上に寄与すべく、1979年に設立。日本の優れた伝統工芸技術、伝統芸能、民俗芸能・行事などの無形の文化財を対象に、保存・伝承・振興の活動を行っている。

【ポーラ賞・ご取材に関するお問い合わせ】

公益財団法人 ポーラ伝統文化振興財団事務局 鈴木 (c_suzuki@polaculture.or.jp)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10ポーラ第2五反田ビル 3階

TEL 03-3494-7653/ FAX 03-3494-7597

10時～17時（土日祝除く）

HP : <https://www.polaculture.or.jp/>

YouTube : <https://www.youtube.com/channel/UCqoBFBt6U8EV1Egj-PH-LbQ/>

Facebook : <https://www.facebook.com/polaculture/>

奨励賞：中村 清吾「白磁の制作」

■受賞内容について

中村清吾氏は、佐賀県有田町に生まれました。有田町は、日本の磁器発祥の地と言われる場所であり、さらに氏の祖父は、佐賀県重要無形文化財陶芸白磁保持者で「ロクロの神様」として多くの陶芸家から尊敬された中村清六氏という環境で、幼いころから豊かな陶芸文化に囲まれて成長しました。九州大学で学んだ後、卒業と同時に清六氏の弟子となり、本格的に白磁制作の修行に入りました。中村氏の制作する白磁は、周囲の光を集めてほんのりと発光しているかのように、静謐な空気を纏い、見る人、触れる人の心をも静かに落ち着かせる佇まいをもちます。



有田の地に育まれた中村氏の、伝統的な轆轤成形技術には高い定評があり、白磁制作を一筋に続けていることに加え、既成概念にとらわれることなく、現代の白磁の表現を探究し続けるその姿勢が評価され、今回の受賞となりました。



令和6年制作 白磁鉢

■中村 清吾 (なかむら せいご) プロフィール

佐賀県有田市生まれ。佐賀県重要無形文化遺産保持者の中村清六の孫として生まれ、九州大学卒業と同時に祖父に師事。平成25年日本伝統工芸展にて東京都知事賞（優秀賞）受賞。令和元年第8回菊池ビエンナーレ展大賞。

奨励賞：奥山 益勢「山田流箏曲の演奏・伝承」

■受賞内容について

奥山益勢氏は、5歳より山田流箏曲の手ほどきを受けました。東京藝術大学在学中は増渕任一郎、鳥居名美野、萩岡松韻、井口法能など各師に、現在は、六代山勢松韻師（重要無形文化財保持者）に師事。

平成10年には、NHK 邦楽技能者育成会第43期を修了。ウィーンでのジャパンフェスティバル、ハンガリーで開催されたIARF（国際自由宗教連盟）世界大会などで日本文化の紹介として演奏し、好評を博します。令和7年には2回目の「奥山益勢演奏会」を主催。その際の《三番叟》の演奏は、豊かな音色を奏でる技術力の高さはも



令和7年2月28日
奥山益勢演奏会《羽衣曲》演奏風景

ちろんのこと、演奏に向き合う姿勢も高く評価されました。



演奏活動だけでなく、お茶の水女子大学附属高等学校箏曲部の講師の他、後進の育成にも積極的につとめる姿勢が高く評価され、今回の受賞となりました。

■奥山 益勢 (おくやま みつせ) のプロフィール

東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了。平成17年、文化庁新進芸術家国内研修生選出。後、河東節三味線を山彦千子師（重要無形文化財保持者）に師事。平成18年、公益財団法人日本伝統文化振興財団の第7回邦楽技能者オーディション合格。平成20年、NHK 邦楽オーディション合格。